

平成22年度 第1回東北ブロッククラブミーティング開催報告

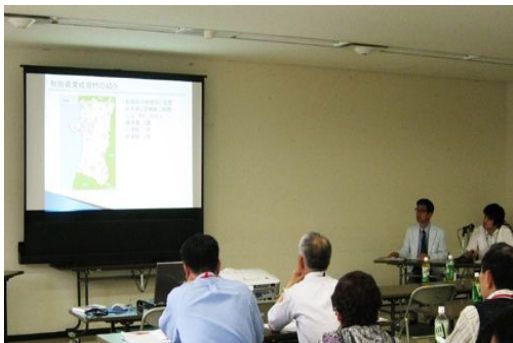
平成22年6月19日（土）に宮城県自治会館において、第1回東北ブロッククラブミーティングを開催し、東北ブロック内の創設支援クラブ関係者等計60名が参加した。

今回は、創設支援クラブの方々に、先進クラブの事例発表と4つの課題（人材発掘・活動拠点の確保・活動資金の確保・会員確保）をテーマとしたグループディスカッションを行っていただき、創設に向けた活動をより加速していただくことを目的に実施した。



1. 事例発表

最初の事例発表は、最近、東北において数が多い設立母体を体育協会に関連して設立された宮城県角田市の「スポーツコミュニケーション・かくだ」のクラブマネージャーの遠藤良則氏より「体育協会を母体としたクラブ育成」というテーマで発表いただいた。



このクラブは、体協そのものが母体というわけではなく、体協と人的連携やその結びつきにおいて事業の展開や運営がなされていることが特徴であった。また、施設が充実しており、教育委員会等行政との連携もうまくとれているなど、地域におけるスポーツ振興を担う役割を持ち、体協や行政と連携がとれているよい事例のスポーツクラブであった。

次に、設立の目的として「まちづくり」とリンクした事例として秋田県東成瀬村の「仙人の郷スポーツクラブ」のクラブ事務局の高橋悟史氏より「まちづくりと結びついたスポーツクラブの育成」というテーマで発表いただいた。

小さな規模の村（約人口3000人）だが、合併をしないで自分たちによるまち（ムラ）づくりのコンセプトの中に、スポーツクラブが位置づけられて創設されていたことが印象的であった。各県で小規模な地域における総合型地域スポーツクラブの手本となる事例発表であったと思う。規模が小さいからという理由で育成ができないと判断しているところや現在育成を進めているところにとって、よりよい情報提供になったと考えられる。

2. グループディスカッション

当初、設立に向けた4つの課題として「人材発掘」「活動拠点の確保」「活動資金の確保」「会員確保」を掲げていたが、希望を募った結果「活動拠点の確保」が少なかったため、残りの3つのテーマについて各2グループの計6グループに分かれて意見交換をした。



「人材発掘」では、クラブ運営のスタッフの確保と指導者の確保という2側面の確保の課題が挙がっていた。各県にあるリーダーバンクの活用などが考えられるが、個人情報保護法の関係でリーダーバンクが機能していない状況にあり、新たなネットワークの構築や種目別協会等の連携が必要であるなどといった意見交換がなされた。

「活動資金の確保」では、やはり補助金が終わった後のことが心配であり、どのように確保していけばよいか不安であるなどの声が上げられた。当然、会費収入を計画していかなければならないのだが、会費を徴収することやその金額設定に頭を悩ましているということであった。やはり、何らかの会費は設定し、補助金や行政からの支援を積極的に進めていくべきだという意見があった。

「会員確保」については、まだまだ総合型地域スポーツクラブについて住民の方々が知らないという状況にあり、いかに存在を周知していくかが課題である。また、会費の問題もあり、お金がかかるなら入らないといった価値観が主流であり、どのようにこの受益者負担の理念を広めていけるかが鍵になると思われるが、相当難しいという感じであった。また、魅力あるプログラムの開発やイベントの開催など、スポーツクラブの存在意義を高める戦略を組んでいかなければならないと自覚しているが、なかなか現実には進んでいかない状況であった。

3. まとめ

各グループから検討された内容について発表していただいたが、時間がなくなってしまう全体のまとめをすることはできなかった。ただし、このクラブ育成が始まり、多くのクラブが設立して運営がなされている現在、今創設に向けて活動されているクラブは、多くの情報を手に入れられる環境にあり、また多くの事例のクラブがあることは頼もしいことと考えられる。しかし、待っているだけではだめであり、自ら情報を獲得し、やはり自分たちの地域にあったクラブの創設にがんばっていただきたいと思う。

(報告：東北ブロック地方企画班員長 浅沼道成)